

② たばこを作るしごと

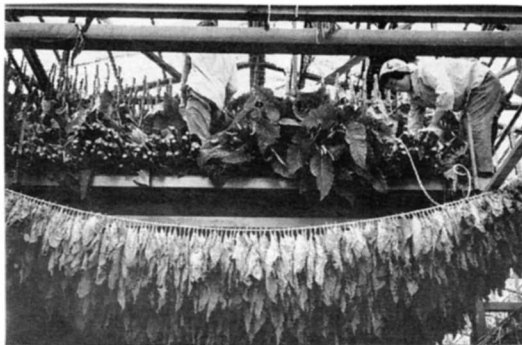
たばこの葉は、米について売り上げの多い作物です。おもに東部地区や川辺の堂平で多く作られています。

3月ごろにたねをまき、5月ごろ畑にいしょくします。60～70日たつと花がさきますが、「しんとめ」とい

って花は切りとってしまいます。7月のおわりごろから、一まいずつていねいに葉をつみとり、ビニルハウスの中であんそうさせて、1月ごろ須賀川の日本たばこ産業株式会社にしゅうのうします。ひょうやしもの害、冷害などのひ害もうけやすく、しゅうのうがへることもあります。



たばこ畑



たばこのかんそう



はわけ

—— たばこ農家の人の話 —— (堂平 関根さんのお話) ——

たばこ作りは、一年中手がかかりますが、一ばんいそがしいのはしゅうかくの時です。7月下旬から8月中旬に集中するので、とてもいそがしく、よその人を何人もたのんで仕事をする家もあります。下葉、中葉、上葉のじゅんにつみますが、たばこのやにがつくので、^{くんで}軍手などをして作業をします。

今は幹干しをしてから葉もぎをした方がよい品質^{ひんしつ}にしあがるので、ほとんどの家で、幹干しをしています。その後^{あと}はA、B、Cの3だんかいに分けて25kgぐらいたばねてしゅうのうします。

病害^{びやうがい}や虫の予防のために、しゅうかく前に3～4回しょう毒をします。しもの害やひょうの害はあまりうけません、台風^{たいふう}の害が一ばん心配^{しんぱい}です。たおれて葉がとれてしまったり、品質がおちたりするからです。